

# 地域の中で、自分らしく生きてほしい 多様なニーズに応え、やさしく寄り添う

代表社員 野田直裕 × 俳優 大沢樹生



愛知県で精神疾患を抱える障がい者のためのグループホーム『ぬくもりのさと』を運営する『やさしい』。「運とご縁に恵まれた」と語る野田代表は、利用者の多様なニーズに応えるべく日々尽力している。そんな代表のもとを、俳優の大沢樹生氏が訪れ、事業にかける想いに迫った――。

――早速ですが、野田代表のこれまでの歩みから。ご出身はどちらですか。

愛知県一宮市です。古くから繊維産業が盛んな町でして、服地を企画するテキスタイルデザイン会社を経営していた父の背中を見て育ちました。その影響もあってテキスタイルが好きでしたが、一方では不動産にも興味を持っていましたね。学業修了後は岐阜にあるアパレル企業に就職。ところが、ファストファッションブランドの台頭などを目の当たりにし、先行きは不透明だと考えるように。そこで、予てから興味を持っていた不動産業に転身することを決意したのです。

――不動産にも色々なお仕事がありますが、代表はどの分野に？

多岐にわたる不動産業の中で私が選んだのは、管理の分野。公団住宅の管理業務に携わっていました。その中で色々な地域の団地を見てまわる機会があったのですが、人口減少、そして住民の高齢化が原因で空き家が多い実態を目の当たりにしてしまてね。

――近年空き家は増える一方だと聞きます。大きな社会問題になっていますよね。

ええ。空き家だからといって簡単に壊すこともできませんし、何か活用する方法はないかと考えるようになったんです。そして帰結したのが、障がい者のためのグループホームとして活用すること。それが地域の福祉に貢献することにつながればと考えたのです。折しも、2013年に障害者差別解消法が制定され、

障がい者を取り巻く環境が大きく変わろうとしていました。障がいのある人もない人も、地域社会の中で尊重し合いながら、共に暮らす社会づくりを進めていこうという機運が高まっていったのです。そうしたタイミングもあり、独立して事業をスタートするに至りました。

――実際にスタートされてみて、いかがでしたか。

ほぼ前例のない事業でしたから、大きなチャレンジではありました。名古屋でトップクラスのリハビリセンターを卒業された難病の方を、最初の利用者として受け入れさせていただいたんです。そこで自治体とのネットワークができ、医療機関の方などにも当施設には確かな受け入れ体制が整っているということを確認していただくことにもつながりました。また、運良く大手福祉施設の管理者を務めていた方が、当社の立ち上げに関わってくれたことも非常に大きな追い風になったと思います。

――その方とはどのようなきっかけでつながりが？

施設を退職されて自由に使える時間が増えたということで、当社の求人募集をご覧になったそうです。豊富なキャリアをお持ちですから引く手あまただったと思いますが、小規模でも頑張っている、と当社の将来性を感じていただいたようでした。それで来ていただけることになったのです。

――良いご縁とタイミングに恵まれたね。代表のご人徳が引き寄せたものでしょう。

私は不動産の知識はありますが、福祉の知識はありませんでした。施設や人材のマネジメントについてなど、きちんと

役割分担できましたし、スタートの段階からしっかりとした基盤を整えられたからこそ、何とかここまで来られたのだと思います。本当に運とご縁には感謝しています。

――事業立ち上げから堅調な歩みを進められていることが窺えますよ。

いえいえ、いつもハラハラしています（苦笑）。3棟目の施設がオープンしたところからようやく、少し先が見えるようになってきたかなと思います。私共の施設では、精神疾患を抱える方を中心に受け入れていまして。今、精神疾患を抱える方というのは糖尿病の患者さんと同じくらい増えているというデータがあるんです。うつ病や統合失調症が原因で幻覚や幻聴に悩まされている人も少なくありません。精神疾患を抱えられている方の中には、かつて一流企業でバリバリ働いていた方なども多く、「一寸先は闇」ということを気づかされます。

――最近はこの人が、なぜ」と思うような芸能人の自殺も相次ぎました……。

そうですね。周りから見れば全く気づかないのに、頑張りすぎて大きな負担がかかっていた――そんなケースも多く見られるように、精神疾患は着実に身近なものになっていると言えるでしょう。その結果、医療機関では受け入れ体制の逼迫により、軽度の精神疾患の方の受け皿が足りていないという状況があるのです。そんな中で私共は、精神疾患を抱える方の「自分らしい生活」を実現できるよう、サポートしたいと考えています。

――社会的意義の高い事業だと思えます。最後に、今後の展望はいかがですか。

さらに多様なニーズにお応えすべく、2021年にはさらに新施設のオープンを予定しています。ただ施設を増やすのではなく、人材の確保・育成により一層注力していきたいと考えています。

(2020年10月取材)

## Pick up the story

### 誰もがやさしく、自分らしく生きられる社会へ

▼多数の業界からチョコレートプロデュースの依頼が絶えない「行列のできるショコラティエ」と、全国の障がい者がタッグを組んで生まれた絶品チョコレート「久遠チョコレート」をご存じだろうか。全国の直営店、百貨店の催事を中心に販売され、口コミで火が付き人気を呼んでいるチョコレートだ。製造・販売に従事する障がい者は会社全体の7割にも及び、障がい者の自立支援につながっているという。野田代表は、「久遠チョコレート半田店」などとの共同プロジェクトにより、拠点を置く知多半島エリアで「職・住」が一体となった福祉ビレッジの設立を構想している。クラウドファンディングで資金支援を募ったところ予想以上の反響があったといい、注目度の高さが窺える。このプロジェクトをきっかけに、障がいの有無にかかわらず誰もが「やさしく」、「自分らしく」生きられる社会が創出されることを切に願う。

## with guest interviewer



対談を終えて

「まだまだ全国には精神疾患を抱える方のためのグループホームの数は少ないそう。そんな中で、グループホーム『ぬくもりのさと』さんでは、10代の若い方も受け入れるなど多様なニーズに応じておられます。地域の中でこうしたグループホームを増やしていくためには、住民の皆さんの理解が必要不可欠。一人でも多くの方に少しでも『ぬくもりのさと』さんのような存在を知っていただきたいです」

## 合同会社 やさしい

愛知県名古屋市千代田区名駅 3-20-20 名駅錦ビル 6F

## グループホーム ぬくもりのさと

愛知県半田市浜町 5

## ぬくもりのさと 成岩

愛知県半田市栄町 4丁目 230

## ぬくもりのさと 榎戸

愛知県常滑市新浜町 4丁目 25番地 1

## ぬくもりのさと 乙川

愛知県半田市乙川源内林町二丁目 78番地 5